

「共に生きる社会」の実現をめざして

# IUHW

vol.

# 77

January  
2009



International University of Health and Welfare



## 2008年度 国際医療福祉大学 学部・大学院 学位記授与式

卒業生・修了生概要

谷修一学長式辞

薬学部から初の卒業生誕生!

クローズアップ卒業生・大学院修了生



CONTENTS

2 2008年度 国際医療福祉大学 学部・大学院 学位記授与式

卒業生・修了生概要  
谷修一学長式辞  
薬学部から初の卒業生誕生！  
クローズアップ卒業生・大学院修了生

8 小田原キャンパスレポート 第10回

聖隷クリストファーとの交流会をふりかえって

9 大川キャンパスレポート 第15回

福岡リハビリテーション学部から初めての卒業生が誕生  
高齢者や障害者の自立支援に活かせる福祉家具を

10 Topics & Columns

関連職種連携のグループワーク発表会開催される／ニッセイ同和損害保険株式会社岡崎名誉会長とニッセイ同和奨学生との懇親会を開催／医療福祉学科「実習報告会」開催／視機能療法学科「臨床実習指導者会議」開催／鈴木五郎医療福祉学部長「退任特別講義」開催／教職員「介護報酬研修会」開催／奥田憲一さんが「優秀賞」を受賞／2009年度入試状況／看護学科「新カリキュラム」の開始／言語聴覚学科 新たな試みを取り入れた実習／乃木坂スクール 2009年度前期開講のご案内

11 私のおすすめ本 第11回

(保健医療学部 作業療法学科 助教 藤田和美)  
「最後だとわかっていたら」

12 サークル紹介 第6回 コーラス部

13 私の主張 第11回

(小田原保健医療学部 作業療法学科 教授 清宮良昭)  
「バリアフリー：インフラと接遇は整ってきているが」

15 研究最前線 第8回 (放射線・情報科学科教授 飯沼一浩)

「超音波乳がん検診装置の開発」

16 施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院／化学療法研究所附属病院／山王病院／高木病院

19 〈巻末特集〉2つの新病院が誕生！

国際医療福祉大学塩谷病院／福岡山王病院

20 医療福祉チャンネル774

(IUHW Hot News) 視機能療法学科那須神社へ国試合格祈願



三月十七日(火)、国際医療福祉大学・那須アスリーナにおいて、国際医療福祉大学 学部・大学院学位記授与式が執り行われた。式前は大粒の雨が落ちる空模様だったが、式が終わって一斉に外に出ると、まぶしいほどの陽射しに変わっており、いくつもの記念撮影の輪ができる晴れやかな光景が広がった。

多くのご来賓、ご両親、教職員の参列のもと、学部卒業生九七六名(保健医療学部五七六名・医療福祉学部二五八名・薬学部一四二名)、大学院修了生一九三名(修士課程一八〇名・博士課程一三名)の学位記授与式が行われた。

コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱のあと、谷修一学長より卒業生総代の葉学科・齋藤淳美さんに学部学位記が授与された。続いて、開原成允大学院院長より博士課程総代の米山万里枝さん、修士課程総代の保谷純一さんに大学院学位記が授与され、さらに各科学業最優秀者(右表)に学長賞が授与された。

谷学長の式辞(四頁)に続き、千保一夫大田原市長、麻生利正栃木県副知事よりご祝辞をいただいた。

卒業生総代の齋藤淳美さんによる卒業生謝辞、大学院修了生代表豊田輝さんによる修了生謝辞、卒業生代表磯俣里子さんによる卒業記念品贈呈が行われ、式が終了。会場前で在校生たちの祝福を受けた後、それぞれの学位記伝達式に会場を移し、ご両親や恩師が見守る中、一人ひとりに学位記が手渡された。

(東京事務所 出版広報室)



国際医療福祉大学校歌 「未来(あす)への扉」

作詞 森由美子 作曲 内田範夫

一、  
高い空に手を伸ばして  
つかんだその夢を  
広い大地の上で 大切に育てる  
未来(あす)への扉を開くのは  
限らない努力を支え合ひ  
確かな思いを貫いて 共に進むこの道  
輝け国際医療福祉大学

二、  
遙か遠い海を渡る  
見知らぬその国で  
差し伸べたこの手を 握り返す温もり  
未来(あす)への扉を開くのは  
果てしない希望巡り合ひ  
微かな光も追い求め 共に進むこの道  
輝け国際医療福祉大学

三、  
流れる雲優しい風  
いつの日か離れても  
「戻る場所はここ」と永遠の 学舎微笑む  
未来(あす)への扉を開くのは  
惜しみなく注ぐ人の愛  
突然の雨に打たれても 共に進むこの道  
輝け国際医療福祉大学

※二〇〇八年度に歌詞の一部が変更になりました。

2008年度 卒業生・修了生概要

2008年度 卒業生

看護学科	120名
理学療法学科	98名
作業療法学科	100名
言語聴覚学科	107名
視機能療法学科	48名
放射線・情報科学科	103名
医療経営管理学科	110名
医療福祉学科	148名
薬学科	142名

2008年度 大学院修了生

修士課程	193名
修士課程保健医療学専攻	180名
修士課程医療福祉学専攻	115名
修士課程医療福祉学専攻	49名
修士課程臨床心理学専攻	16名
博士課程保健医療学専攻	13名
博士課程保健医療学専攻	5名

学業最優秀者(学業成績優秀者)

看護学科	高橋 敬子
理学療法学科	宮崎 良多
作業療法学科	藤林 智子
言語聴覚学科	磯 侑里子
視機能療法学科	小久保 紫乃
放射線・情報科学科	田代 和也
医療経営管理学科	柴田 麻記子
医療福祉学科	高山 彩友美
薬学科	齋藤 淳美

修了する留学生

ARUNA TSESODHOLTSOO	モンゴル
BAST GANDEEB	モンゴル
LE THU THUY	ベトナム
黄 秋晨	中国
黄 雷表	中国

博士課程保健医療学専攻修了者

江口 英範(理学療法学分野)  
・論文「側臥位からの起き上がり動作における肩および前腕位置の影響、腹筋及び肩関節周囲筋の筋電図学的検討」

齋藤 信夫(理学療法学分野)  
・論文「アルコール依存症患者の身体活動度と睡眠度に関する研究(テイクケアに連関するアルコール依存症患者への歩行運動介入)」

菅沼 一男(理学療法学分野)  
・論文「広範囲骨髄質調節を利用した徒手治療法の効果に関する研究(効果の持続時間、異なる施術者による効果の比較)」

豊田 豊(理学療法学分野)  
・論文「一切断後義足装着初期の大腸管走行練習における効果的な指導方法の検討、模擬大腸管走行練習に対する応用行動分析学を用いた介入効果」

早坂 友成(作業療法学分野)  
・論文「統合失調症患者における視覚情報処理機能の特徴と判断難易度が異なる視覚課題を用いた眼球運動の比較」

平野 大輔(作業療法学分野)  
・論文「重症心身障害児・者における応答時の脳活動(近赤外分光法(NIRS)による事例検討)」

下田 信明(作業療法学分野)  
・論文「手の心的回帰課題における課題遂行戦略と脳活動の検討」

菅原 光晴(リハビリテーション分野)  
・論文「左半身空間無視患者に対する認知リハビリテーションの有効性についての検討」

三谷 保弘(リハビリテーション分野)  
・論文「簡易型乗馬シミュレータによる他動揺動刺激が身体機能に及ぼす影響に関する研究」

平田 文(言語聴覚分野)  
・論文「食塊特性および加齢が嚥下反射に与える影響」電気生理学的手法および心理測定法を用いた検討」

横山 美樹(看護学分野)  
・論文「基礎看護学レベルにおけるフィジカルアセスメント教育の検討」学習項目とその到達目標に基づく教育プログラムの展開」

木下 善浩(医療福祉経営学分野)  
・論文「病院の効率性の測定におけるNETWORK DEAの意義」

米山 万里枝(医療福祉経営学分野)  
・論文「テキストマイニングによる産後1か月の母親の精神状態の分析」産後1か月の母親の精神状態を測する指標の探求」

山岸 曉美(医療福祉学分野)  
・論文「Symptom Prevalence and Longitudinal Follow-up in Cancer Outpatients Receiving Chemotherapy」





# 学長式辞

(要旨)

谷修一 学長



福祉への需要は増えることはあっても減ることはありません。  
\* 本学では医療福祉の専門職としての教育を行ってきました。「ともに生きる社会を築く」という基本理念からも、その仕事は個人の利益追求ではなく、社会奉仕が基本であり、自身に対する厳しい規律と強い倫理観が求められます。卒業後もこれを忘れず、国内外の人々の健康と福祉の向上のために尽くしていただきたい。

● 今年度は薬学部から初の卒業生が誕生し、本日卒業した学部学生は九七六名、学位授与を受けた大学院生は一九三名です。皆さんに、教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、ご臨席いただいた多くの保護者やご家族の方、皆様の物心両面のご支援があれば今日の日はなかったことと思います。誠にありがとうございます。そして有難うございました。

● 昨秋アメリカで始まった世界同時不況、株安などによる経済不況はわが国にも大きな影響を及ぼし、雇用不安などが社会問題になっていきました。医療についても、ここ数年急速に明らかになった勤務医不足や産科医療、救急医療の問題など、地域医療の崩壊といわれる現象に対して、様々な対策が打ち出されていますが、その効果が現れるにはまだ時間が必要です。福祉についても、四月から介護報酬が三%引上げられますが、介護専門職の人材確保や処遇改善には十分との意見が多いようです。福祉や介護を目指す若者が激減し、多くの大学、専門学校で受験者数も減少しており、福祉の現場でも専門職が不足しています。こうした社会情勢ですが、卒業生の多くは医療や福祉の仕事に就きます。時代が変わり制度が変わっても、サービスを提供する専門職とそれを待つ病気の人や障害者がいることに変わりはありません。少子高齢化社会の中で、健康や

## 人々の健康と福祉の向上のために尽くしていただきたい。

● 二月末現在で、本学に寄せられた求人数は三千を超える施設から七万二千人にのぼり、平均一人当たり七〇倍になりました。これは医療福祉の現場での皆さんの活躍が認められた結果です。本学で共に学んだ先輩にできて皆さんにできないはずはありません。自信と誇りをもって本学を後にしてください。そして、皆さんの歩む姿が、後輩に希望を与えることを忘れないでいただきたい。  
\* 仕事を通じて経験を積んでいくこれらの道のりは、学生生活より長く、人間を大きく形成していくはずですが、自分の人生にとって、何が良かったか、何が悪かったかは、何年後に振り返るとわからず、今を精一杯生き、後から、あの時が自分の転機だったと気づくのが、人生の真実だと思います。今この瞬間を情熱と勇気をもって生きることこそ、若い人たちに与えられた特権です。皆さんが、実りある、悔いのない人生を歩まれんことを切望して、私の挨拶とします。

### ● 薬学部から初の卒業生誕生!



学位記伝達式

川久保篤さん



次に、卒業生を代表して、川久保篤さんより謝辞が述べられました。  
「四年前、新たな生活を前に期待と不安を抱きながら入学式に臨みました。見知らぬ大田原の土地で、親から離れ、不安と緊張に押しつぶされそうだった中、時折届く実家からの仕送りに入っていたちよつとしたメモ書きに、何度も助けられました。ここまで暖かく見守ってくれた両親に、ありがとうございます。そして先生方、私たちは薬学部第一期生であり、勉強や就職、学校生活のことなど、先の見えにくいことに戸惑うこともありましたが、そんな中、武田学部長をはじめ、多くの教職員の方々の熱心な指導、親切なサポート、励ましの言葉や笑顔に勇気づけられました。本当にありがとうございます。」

本学薬学部は二〇〇五年四月に第一期生を迎えました。以来、四年の月日が経ち、薬学の知識や技術を蓄積し、人間性豊かに育った一四二名の学生に「薬学」の学位が授けられました。  
学部初となる学位記伝達式ではまず、武田学部長から、一人ひとりに学位記が手渡されました。その間約一時間、ご臨席のご父兄からフラッシュと拍手が止むことはありませんでした。続いて、学部長の式辞では、これから医療人として社会に立つ卒業生の心に届く、いくつもの言葉が送られました。中でも、  
「皆さんは、薬学部の、国際医療福祉大学の、日本の宝物です。宝物は常に光り輝いていなくてはなりません。皆さんが輝き続けるために必要なことは、生涯学び続けることです。社会に旅立つてからも、医療の担い手として常に自分を磨き続けてください。」  
という言葉を受けた卒業生の表情は、その期待に応えようとする自信と希望に満ち溢れていました。

● 学位記授与式に始まり、ご父兄を交えた懇談会、学位記伝達式、魚菜での謝恩会と続き、さらに、夜はエビナール那須で薬学部卒業生主導の謝恩会が行われたこの日、教職員からの「おめでとう」と、卒業生からの何千何万もの「ありがとう」が聞かれました。共に薬学部を築き、この感動的な一日を迎えた卒業生の四年間の努力に心から「ありがとう」(薬学部助教 宮川和也)

## クローズアップ 卒業生

うれしすぎる誤算… 本当にありがとう

理学療法学科 長谷亜紀



最初は資格を取るためだけのつもりで始めた二度目の大学生生活。社会人から三十歳を過ぎるの入学で、同級生はひと回り以上年下の子だらけ。加えて入学翌日に妊娠が判明し、戸惑う私に先生方は総じて「なんとかなるよ」と意外にも軽く返してくれた。こうして私の波乱の学生生活はスタートした。

あれから四年、本当になんともなっていた。その陰には家族のサポートはもちろん、いつも明るく励まし包んでくれる先生方の存在があった。同級生は事情の違う私をよく理解し支えてくれた。年下だったはずの彼らには立派なセラピストに感じられた。みんなとともにお腹の中で成長したチビももう三歳。感謝に溢れるうれしい誤算だらけの学生生活だった。

### 「地図」と共に

作業療法学科 松坂 伸行



「良き医療者である前に、良き人であれ」私はこの言葉と共に大学四年間を過ごしてきました。振り返ると、この四年間、実に多くの経験ができました。多くの友人と笑いや涙を共有し、将来について朝まで語り合い、運動会の応援会でダンスを覚え、自転車から久島まで旅をしました。その一つ一つが私の大学生活に彩りを与えてくれました。

● 学業に力を入れたと胸を張って言える学生生活ではなかったと思います。しかし、充実した学生生活を送れたと自負しています。このような経験は、決して一人では得られず、多くの友人、先生方や家族の支えがあったからだと思います。心から感謝しています。

● 今、門出を迎え、新しい人生が始まろうとしています。四年間の学生生活で得た経験は、「地図」となり、これからの人生に道しるべを与えてくれると思います。迷いながらも、この「地図」と共に一歩一歩進んで行きたいです。

### 「夢」の実現へ

放射線・情報科学科 東峰智史



私は学部の副代表を務め、さらにサッカーサークル活動や海外臨床研修への参加など、様々な活動を行って来ました。その中で同じ夢を目標に共に学んだ仲間たちとの生活を通して、診療放射線技師として働く上で重要な人間性や協調性を養うことができたと考えています。三年次に体験した臨床実習は、業務の手伝いを通して改めて我々の担う仕事の重要性と責任の重さを痛感させられた日々でした。撮影後に患者様からいただいた「ありがとう」の一言は、医療従事者として働くことへの喜びを感じるとともに、この患者様の感謝の気持ちに比べられる技師になりたいと志した瞬間でした。

● これら四年間の貴重な経験を活かして、少しでも早く診療放射線技師としての職務をしっかりと全うできるように、患者様中心の安心で納得のできる良質な医療の実践ができればと考えています。

### 現場に出るのが楽しみ

医療福祉学科 平居紗佳



この四年間、私は多くの人と出会い、そしてその人たちから多くのことを学んできました。例えば四年次の病院実習では、職員の方やクライアントと出会うことで、毎回新しい気持ちで相談に応じ、クライアントとの出合いを喜び、クライアントのありのままを受け入れることが、ソーシャルワーカーが信頼関係を築いていく上で大切であることを学びました。また、相談内容の緊急性を判断しながら、迅速に対応するソーシャルワーカーが、病院の中で重要な役割を担っていることを感じました。

● 私は老人保健施設への就職が決まっています。今まで老人保健施設での実習経験がなく不安もありましたが、今まで先生方に教えていただいたことをようやく現場で発揮できるのだと思うと楽しみでもあります。入職後も自己研鑽に励み、自らの能力を高められるよう日々努力していきたいと思っています。

### 卒業にあたって

言語聴覚学科4年 井出育子



私は常に身体が激痛に見舞われる二つの難病を抱えながら八年かかって、今日卒業の日を迎えることができました。

● 高校生の時、病気の関係で出会った「言語聴覚士」になることを胸に誓いました。当時、言語聴覚士を養成する四年制大学は全国に一握りしかありませんでした。私がこの大学を選択したのは、健康者も障害者も共に生きる、という教育理念が障害者である私の心に深く響いたからです。私が難病を抱えながら卒業できたのは、先生方、大学関係者の方、大田原市の方、その他多くの方々から心温まるご指導やご配慮をいただいたからです。卒業にあたり、「生きる」ということは、夢を持ち続けることなのではないかと思いましたが、この大学で得た、人と人との関わり、常に学び続けることを決して忘れません。素晴らしい「国際医療福祉大学」で学び卒業できたことは一生の誇りです。

臨床心理学専攻

臨床心理学専攻は、本大学院医療福祉学研究所に二〇〇七年の春に新設された、出来立てホヤホヤの専攻です。この春めでたく第一期修了生一六名を輩出することになりました。皆さん優秀で、多くは卒業後すぐに臨床心理の仕事に携わる予定です。まだまだ十分に形が定まらない流動的な組織ですが、それだけ大きな可能性を秘めているとも言えます。皆さんの応援を期待しています。

勉強に対する姿勢を学べたことが財産

臨床心理学専攻  
青山 慶明



私 が本専攻を選んだ理由は精神分析を学びたかったということがあります。二年間の学生生活はこうした知的欲求を十分に満たす内容であったとともに、得るものも非常に大きかったといえます。どのようにして、私の欲求が満

たされたか？そして、得たものは何か？

まず、満たされたものは、精神分析に精通した教授陣がいたということでした。やはり、どの大学院が自分の学びたいものを提供してくれるのを重視したことが良かったと考えています。そして、得たものは、学びに対して能動的に働きかけるということでした。それは、積極的に文献を調べて勉強をするという姿勢の大切さです。つまり、魚をもらうのではなく、魚の釣り方を学べたということだと思います。これからの人生で、この釣りの仕方を知っていることが非常に大切なことではないでしょうか。それでは、どのようにして釣りの仕方を得られたか？それは教授陣が自分の考え方を押し付けず、本人の知的な好奇心を大事にしてくれたところにあります。そして、求めていけば親身に指導をしてくれたという点が大きいです。考えれば主体性を大事にするという本専攻の教育姿勢が私は重要なような気がします。その意味で、私にとって国際医療福祉大学院を選択したことは非常に意義のあることだったと考えます。

一生の出会いに恵まれ、合格をめざす

臨床心理学専攻  
梅村 香織

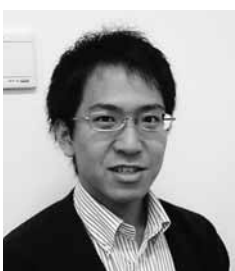


私 が臨床心理学専攻に進学を決めたのは、作業療法士として六年間働いてきた中で、人々の体だけでなく心の両面をしつかりと考えられるようになったからです。

本専攻には、老年医学を専門とする和田秀樹教授を始めとして、様々な分野の第一線で活躍される臨床心理士・医師の先生方がいらっしゃるの、幅広いご指導を受けられることができました。また、希望する分野の実習先を紹介していただき、在学中に三田病院や先生が勤務されているクリニックで、定期的にインテークの聴取や診療の陪席をさせていただくという非常に恵まれた機会をいただきました。第一期生ということでシステム作りにも参加することが多かったため、学生と先生方の結束力は学内にとどまらず、アフター5にも発揮されていたように思います。卒業後も、本年秋に受験する臨床心理士試験に向けて勉強会を開催し、心理士を目指す同志と連

人間的にも成長させていただき感謝

臨床心理学専攻  
竹内 一器



私 が本専攻を選んだ理由は、社会人や未経験者に対して広く門戸を開いているという点で、どうしても社会経験や一般常識に欠ける部分があります。しかし、臨床心理学は専門職とはいえ、その専門技術と同等以上に社会性が求められます。その点を考えた時、他大学院に比べて社会人が多い本専攻は私にとって非常に魅力的に映りました。同期のほとんどが私よりも年長者で、社会的、人間的に成熟されている方々ばかりでした。先生方はもちろん同期の方からも、社会人として人として大切な多くのことを教えていただきました。

また、本専攻は当時開設一年目で、組織やシステムが立ち上がっていき様子も見せていただくことができませんでした。これは、将来は産業界でも活動したいと考えています。

世話になった皆さま、大変ありがとうございました。

看護管理学専攻

博士課程  
看護管理学専攻  
福井トシ子



平成一四年当時は、新卒看護師の離職率が問題視されるようになり、連日報道される医療事故に、社会が医療不信の目を向けていた。これまでの経験では対応できなくなってきた病院利用者との向き合い方に、看護師も自信を失いかけていた。そんな時、看護師がどんなスタンスで現実に向き合えば、いきいきと楽しく仕事ができるだろうかを模索していた。その時、マネジメント方式の一つである「ワークアウト」の概念を知り、学習しながら、現場の改善を行うということに取り組み始めたところ、成果を確信することができ、ぜひこの取組を何らかの形にまとめられたいかと考え、社会人大学院生を応援していた本大学院に入学した。

入学した翌年に看護部門長の役割を担うことになり、それまで取り組んできたチームマネジメント

の実践者ではなく、研究者として、支援者として、アクションリサーチを継続する状況になった。この役割を担いながら、研究を継続することができたのは、この研究に参加してくれた仲間たちがいたからであり、実証してくれたからである。仲間の存在に今も感謝を忘れない。

平成一六年度に大学院を修了することができたが、チームマネジメントは、大学院を修了後も進化をしながら継続することができ、平成一九年度には、看護部全体へチームマネジメントのアプローチを使って、新卒看護師教育システムの刷新を図ることができた。

大変めまぐるしい三年間であったが、言葉には表せない充実感があった。このときの経験は、今もマネジメントに役だっている。

看護学分野

臨床に還元できる研究を続けていきたい

修士課程 看護学分野  
山岸 暁美

まず、ご指導いただいた田中富久子先生に深く感謝申し上げます。ここでは、博士論文の一部としてまとめた『Symptom Prevalence and Longitudinal Follow-Up in Cancer Outpatients Receiving Chemotherapy. J Pain Symptom Man-

age in Dress』を紹介させていただきます。

「症状頻度 (Symptom Prevalence) に関する知見は、個人の患者の抱える問題やニーズの予測、集団のケアプランの立案 (患者マネジメント・体制構築)、また症状に関する臨床スタップへの教育などの点で臨床上意義深いとされます。外来化学療法を受ける患者は年々増加しており、外来患者に対する症状緩和は喫緊の課題です。外来化学療法中の患者の Symptom Prevalence と ニーズを明らかにすることは、有効な緩和ケアシステム構築のためのファーストステップであると考えます。よって本研究では、外来化学療法中のがん患者を対象に調査を行い、4000枚の質問紙の解析をしました。結果、以下の頻度の高い4症状群 (Symptom Cluster) が明らかにになりました。

1. 心理社会的な問題 (不眠・精神的苦痛・意思決定のサポート)、2. 栄養・消化器症状の問題 (口腔問題・食欲不振・嘔気)、3. 倦怠感、4. 疼痛・呼吸困難・しびれ。この結果をもとに外来化学療法を受ける患者に対する「緩和ケアスクリーニングシート」を修正し、また複数の病院への協力を得て、上記4症状群に対する有効な介入緩和ケアプログラムの開発に

取り組みはじめました」

これから臨床に還元できる研究を遂行していきたいと思っております。お世話になった方々に、再度心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

先生のご指導と職場の応援に感謝

修士課程 看護学分野  
西辻 美佳子



職 場勤務 (国立病院機構熊本医療センター ICU 副看護師長) と勉学の両立という大きな課題を達成できましたのは、支えていただいた多くの皆様のお陰であると感謝しています。

研究計画を考える際に指導教員の松尾先生から、「研究は、修士課程が修了後も引き続き研究できる領域にしては」とのアドバイスをいただき、「ICUに勤務する看護師の栄養管理に対する意識と行動」という研究テーマを決めました。研究を進めていく際にも「何を明らかにしたいのか」という課題で何度も苦しみましたが、そのたびに松尾先生の面接指導を受け、一筋の光を見つけて前に進むことができました。研究の過程でアンケートをとることになった

時は、松尾先生から、「質問紙ができたら研究の六割は終了」との励ましをいただき、じつくり時間を掛けて取り組むことができました。また、統計処理に関しては、兵頭先生と北川先生から熱心なご指導をいただきました。

遠隔授業や福岡での面接に際して、勤務調整をいただいた職場の上司の理解や看護師の応援があり、修学することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、臨床での看護を続けながら、ここで学んだ研究を深めることや研究の指導ができるようになりたいと思っています。

修士課程 看護学分野  
大野 智和



近年患者のニーズが大きく変化する時代になりました。看護の質を高めるためには深い学識と卓越した能力を培うことが必要となります。高度専門職を育成するために、仕事を持つ社会人に配慮された国際医療福祉大学大学院の教育理念に感銘をうけ入学を決心しました。

入学してからは仕事と勉学の両立が大変な部分もありましたが、多くの講義が平日の夕方と土曜日

に開講されていたため仕事に大きな影響はありませんでした。また、同時双方向遠隔授業のおかげで熊本にいながら一流の先生方の講義を受けることができました。一年目は看護の実践者を育成するための講義が中心でした。さまざまな理論や最新の知見を学ぶことができ、研究の基盤を築くことができました。

二年目は学位論文の作成が中心でした。論文作成は大変でしたが先生方に助言を頂きながら何とか書き上げることができました。現場の問題解決には常に研究的視点を持つことの重要性を学ぶことができました。

大学院を修了できたのも職場の理解と協力があつたからです。「学びたい」と思う気持ちさえあれば働きながらも学修できることを示すことができました。今後は大学院へチャレンジするスタッフを精一杯支援したいと思っています。



熊本医療センター外観

# 聖隷クリストファーとの 交流会をふりかえって

理学療法学科二年  
日吉亮太



だが、テスト前ということもあり、今年度は二月に日程をずらして実施しました。企画は昨年の一月下旬から始まりました。お互いの大学の先生を通じて日程を決め、そこから代表者の連絡先を交換し

合って具体的な準備にとりかかりました。今回は本学での実施ということもあって、終始主体的に企画を進めていきました。例年行ってきた企画をベースに、「餅つき」「バレーボール大会」「クイズ大会」、さらには、文化祭での「豚汁作り」などが決まっていきました。さらにそこから、「食事」「クイズ大会」など、担当ごとに実行委員を選び、それぞれ企画を練り上げて、再度聖隷クリストファー大学との打合せにより最終的に決定していきました。

さて当日は朝から、女子を中心に食事用の「豚汁作り」、男子を中心に「バレーボール大会」の準備やその他の力仕事が始まりました。「餅つき」の準備が整い、豚汁ができた頃に、聖隷クリストファー大学の方が到着しました。

まず最初に合同で行ったのが「餅つき」です。初対面ということもあり、初めはお互いに表情も硬かったのですが、餅をついてしまえば、そこは「同じ釜の飯を食う仲間」、すぐに打ち解けて笑顔も見え始めました。餅がつきあがれば、そのまま「食事」に移ります。「食事」の場はお

互いにリラックスして向き合える絶好のコミュニケーションの場です。実際に、高校時代の部活やお互いの学校の話などで大いに盛り上がりました。自分たちでついた餅、豚汁は大好評で、次から次にたくさんの方がおかわりをしているのが印象的でした。

「食事」が終われば、「クイズ大会」です。「クイズ大会」は、本学と聖隷クリストファー大学の生徒によるチーム対抗戦で行いました。実行委員の作った問題は絶妙で、解答者を悩ませると同時に、共通の話題を提供し、場をさらに盛り上げてくれました。

続いて「バレーボール大会」です。学校の名譽をかけてということはありませんが、学校対抗+先生チームで行いました。楽しみながらも本気モードで白熱しましたが、意外だったのが先生チームの頑張り。生徒以上に真剣でした(笑)。交流会もいよいよ終盤。聖隷クリストファー大学による「学校紹介」では、自分たちにはないものを感じさせられ、いい刺激になりました。最後に記念品を交換し、記念写真を撮って交流会が終了しました。

他大学との交流により、自分たちになんかを感じずかされ、それはまだ歴史の浅い本学に今後活かしていけるものだと感じました。こうした交流会を今後も続けていきたいと思ったのが今回の一番の収穫だったのではないかと思っています。来年度は、本学が聖隷クリストファー大学へ伺い、さらに交流を深めることができたらと思っています。

# 福岡リハビリテーション学部 から初めての卒業生が誕生。



谷修一学長からは学部生総代の三浦恭平さん(理学療法学科)へ、また、開原成允大学院長からは博士課程修了生総代の早坂友成さん、修士課程修了生総代の中村真知子さんへ学位記が授与されました。さらに学業成績優秀者に送られる、栄えある学長賞が三浦恭平さんと中村久美さんに授与されました。

福岡リハビリテーション学部にとつて初めての学位記授与式と、併せて大学院九州地区学位記授与式が三月一日(土)に大川キャンパス講堂で執り行われました。福岡リハビリテーション学部の第一期生である理学療法学科四七名、作業療法学科四四名、合計九一名の卒業生が学位記を授与され、社会へと巣立ちました。大学院は博士課程一名、修士課程二名の修了生へ学位記が授与されました。

式典は、卒業生・修了生に加え、多数のご来賓・保護者の方々が列席するなか、合唱隊による校歌斉唱で厳かに始まり、在校生と教職員の有志で編成された合唱隊はこの日のために厳しい練習を繰り返してきましたが、その成果が見事に本番で発揮

と誇りを持って失敗を恐れず何事にもチャレンジし、実りある人生を送って欲しいとの式辞に続き、開原成允大学院長、高木邦格理事長からも「第一期生の卒業を迎えて感無量の思い。今日が新たなスタート。悔いのない人生を送り、国内外で活躍して欲しい」と、はなむけの言葉が贈られました。来賓祝辞に続き、卒業生を代表して中村久美さん(作業療法学科)が「実りある大学生生活を送れたことに感謝しています。苦しいこと、つらいことがあっても理学療法士、作業療法士として友と一緒に前進します」と謝辞を述べ、式典は卒業生の百瀬あずささん(理学療法学科)から本学への記念品贈呈で締めくくられました。

式典終了後は保護者の見守る中、学科ごとの、学位記伝達式が行われ、田原弘幸理学療法学科長、古川昭人作業療法学科長から卒業生一人ひとりに学位記が手渡されました。理学療法学科では、初代の学友会の会長を務め、第一期生のリーダーとして活躍した沖侑太郎さんが「患者さん本人だけでなく、その人に係わるすべての人を笑顔にすることができると素晴らしい職業だと感じ、理学療法士を志しました。患者さんという花をいっぱい咲かせることができる太陽のような存在になれるよう日々精進していきます。我が選んだ道に後悔なし」と、医療の世界へ歩み出す決意を熱く語り、出席者から大きな拍手で卒業を祝福されました。卒業の喜びのなかにも、励ましあっていた友人との別れ、未知の世界へ進むことへの期待と不安など様々な思いが入り混じった表情を見せた卒業生でしたが、一人ひとりの確かな成長と卒業後の活躍を実感することができた一日でした。

## 高齢者や障害者の自立支援に 活かせる福祉家具を

高齢者や障害者の自立支援に活かせる福祉家具を開発、製作して大川の家具業界浮揚を図ろうと、「家具・住環境の環境自立介護産業分野構築によるビジネスモデルを求めて」をテーマにした研究会が二月二三日(月)、福岡リハビリテーション学部で開かれました。

この研究会では、記念講演会が二部形式で行なわれ、地元の家具メーカーなどのインテリア産業界をはじめ、行政、医療福祉関係者、まちづくり関係者などの約一八〇名が参加しました。会場は立ち見が出るほどの盛況となり、福祉家具開発への関心の

高さがうかがわれました。研究会は、四月に本学部の教授に着任された齊場三十四先生(前佐賀大学医学部教授)の提唱で、大川市などが進めている高齢者や障害者の自立を支援する家具の開発を目指す研究団体設立に先駆けて行われたものです。研究団体は大川市、大川家具工業会、国際医療福祉大学の三者を中心に、大川市にある福岡県工業技術センターインテリア研究所も加わった産学官で組織され、介護用の機能的な家具などの開発や臨床実験をおこなう予定です。さらに、作業療法学科の学生は、家具製作を体験し、今後の医療の現場で役立てようという試みも実施される予定です。

齊場教授は講演で、大川市の年間予算のうち介護保険費が大きな割合を占めている現状などを説明したうえで、「自立支援家具を開発することで、市の財政も改善され、新産業の創出にもつながる」と提唱されました。

また、長崎大学医学部の長尾哲男教授からは「家具・道具の活用と生活支援」を演題に高齢者や障害者の視点に立った家具開発の必要性を訴えられました。熱心に耳を傾けた参加者からは、ブランドを権威づける方法など多くの質問がなされ、新しい分野に大川の技術を活かし、ビジネスチャンスを掴みたいとの熱意が感じられる講演会となりました。

# トピックス

Topics

## 関連職種連携論のグループワーク発表会開催される

教務委員長 藤田郁代

去る、一月五日、大田原キャンパスにおいて、「関連職種連携論」の受講生によるグループワーク発表会が開催された。発表演題は四四題で、その中から最優秀賞と優秀賞五題が選ばれ、谷修一学長より表彰された。受賞したグループの学生は感激した面持ちで、賞状を受け取った。この科目は、全学科の学生が机を並べ、チーム医療・チームケアについて学ぶ学部共通科目であり、本学の特色ある教育の一環をなしている。本年度は、九八三名の二・三年生が履修し、講義を受講するとともにグループワークに取り組んだ。近年、医療福祉の現場では知識・技術の高度化、専門分化がめざましく、職種間の連携なくして適切な治療・ケアを提供することは困難な状況となっている。そこで、教育においては専門的な知識・技術を修得するだけでなく、「チーム医療・チームケア」を実践する連携能力を身につけることが重要な課題となっている。

本学は、医療福祉の総合大学として、早期から連携能力の育成を重視し、全国の大学に先駆けてチーム医療・チームケアに関する教育を推進してきた。具体的には、平成一二年年度から「関連職種連携

論」を開講し、平成一八年度には「関連職種連携実習」を実施し、体系的に連携技術が修得できるカリキュラムを実践している。「関連職種連携論」は「関連職種連携実習」の基礎となる科目であり、この科目を修めた後、附属・関連病院などで連携技術の修得をめざした実習を受けることになる。

「関連職種連携論」では、チーム医療・チームケアのあり方、各職種の専門性と関連性、連携技術について学ぶことになった。前年度までは講義が主体であったが、



平成二〇年度はグループワークを取り入れ、体験活動を通じて連携への理解を深め、基本的技術の修得を促すこととした。グループワークでは、全学科学生が二〇名程度のグループを作り、チーム医療・チームケアに関するテーマでディスカッションをし、その成果を発表した。今回は、脳卒中患者を想定し、心身機能、活動、社会参加の問題などに、各職種がどのように連携して対応するかをテーマとしたものが多かった。

学生は、過密な学習スケジュールの中で時間を捻出し、活発に意見交換をして案を練り上げ、発表へときぎつけた。この過程で、他職種への理解が深まり、協働のあり方を具体的に理解すると同時に、連携技術の糸口を掴んだものと思われる。発表会では、その成果が十分に示され、学生の努力に感銘を受けた教員が多かった。参加した学生からは、

「連携の難しさと重要性を知った」  
「実習前に他職種について理解できてよかった、自領域の実習でもこの経験を活かしたい」  
「授業で学んだことを、実感として理解できた」  
「これまで同じキャンパスにいても、他職種についていかに理解していなかったかがわかった」  
など、率直な感想が寄せられた。

二一年度は、グループワークをさらに拡大・発展させ、より魅力あるものにしていきたいと考えている。

●最優秀賞  
テーマ「医療・福祉の質の向上を目指す」

受賞グループのメンバー	
NS	大森優佳
NS	関口ひかり
NS	柳沼彩乃
NS	粕谷もも
PT	原田愛弓
OT	小川成賢
OT	田中瑞穂
OT	市原未貴
OT	滝田拓也
OT	山口沙央里
ST	川田竜也
ST	松谷佳奈
ORT	鈴木舞
RT	磯裕樹
RT	佐藤祐二
RT	廣戸春樹
HM	河合研司
HM	滝本真里江
HM	依田奈保子
HS	吉原貴
HS	金久保正光
PS	生山野々子

## 「ニッセイ同和損害保険株式会社 岡崎名誉会長とニッセイ同和奨学生との懇親会」を開催

二月十七日(火)大田原本校那須アスリーナにおいて岡崎真雄名誉会長とニッセイ同和奨学生との懇親会が開催されました。

この奨学金制度は平成九年にニッセイ同和損害保険株式会社のご厚意により設



立され、本制度の設立にご尽力いただいた岡崎名誉会長(設立時社長)をお招きして、平成一〇年度から開催されており今回で一〇回目になります。懇親会には高木理事長、谷学長をはじめ北島副学長、岩尾副学長、各学科長及び現在奨学金を受けている奨学生二十四人が出席しました。懇親会では高木理事長、谷学長より歓迎の辞が述べられ、続いて岡崎名誉会長から、ご挨拶と奨学生に対する励ましのお言葉をいただきました。

その後、奨学生から奨学金の御礼と近況報告を兼ねた感謝の挨拶を行い、特に四年生からは、卒業後の進路や将来の抱負に関する発言もあり、岡崎名誉会長や高木理事長からアドバイスや激励を受ける等、和やかな雰囲気の中で終了しました。(本校学生課)

## 医療福祉学科「実習報告会」開催

医療福祉学科では、二月三日に「平成二〇年度社会福祉援助技術現場実習

習報告会」を開催しました。本報告会は、昨年八月から九月に実施した二三日間の臨地実習を踏まえ、その後深めたソーシャルワーク実践に関する研究内容を報告するもので、実習施設・機関の指導者や今年度実習生及び次年度実習生、教員あわせて三一〇名が出席して行われました。

報告を終えた学生は、それぞれの実習報告について実習指導者の方から貴重なコメントをいただき、現場での役割と課題などを実感できたようでした。また次年度実習予定の学生にとっては、実習への期待とあわせて、自らの実習課題の設定にむけて意欲が湧いている様子でした。報告会后、施設等の指導者の方と教員による実習教育評価会議を開催し、実習のより効果的な実施方法について意見交換を行いました。その場では、社会福祉士養成のカリキュラムが二〇年ぶりに改正され、実習内容の強化が図られることとなった点も踏まえ、実習施設・機関と大学がさらに連携を深め、質の高い社会福祉士を養成するために取り組んでいくことをあらためて確認しました。

(医療福祉学科 林和美)

## 「臨地実習指導者会議」開催

去る二月二七日、東京サテライトキャンパスにて、第五回視機能療法学科臨地実習指導者会議が開催された。岩手県から長野県まで一都七県から一三施設一七名の出席者があった。

当日は、谷修一学長よりご挨拶をいただき、根本眼科の高安和子氏、自治医科



大学病院の保沢こずえ氏、埼玉医科大学総合医療センターの丸林彩子氏によるプレゼンテーションが行われた。

プレゼンテーションの内容は、臨地実習引き受け側のメリット・デメリット、指導内容・具体的な指導法の工夫、近年の学生の変化と問題点、これからの実習生・養成校への要望についてであった。

討論の時間では、先にプレゼンで問題提起された内容について、出席者から活発な意見が出され、続く懇親会においても時間いっぱいまで情報や意見の交換があり、大変有意義な時間となった。実習指導者皆様の本学学生に対する熱心な指導には、深い感謝の思いでいっぱいである。今後も各臨地実習施設と教育側が協力し合い、お互いの問題点を把握して、双方向的な連携を図ることがより良い臨地実習にしていくために大切であると考えている。そして、臨地実習施設から指摘された問題点を次年度の課題とし、改善していく努力が求められていると心を引き締めた一日であった。

(視機能療法学科准教授 三柴恵美子)

## 私のおすすめ本

保健医療学部 作業療法学科 助教 藤田和美

最後のとわかっていたら ノーマ コーネット マレック作・佐川睦記 (サンクチュアリ出版)

この本には、二〇〇一年九月十一日、アメリカで起きた同時多発テロのあと話題となった詩が書かれている。ほんの数分で読める短い詩なのだが、「テロで若くして亡くなった消防士が生前に書き残した詩」として、世界中に配信され多くの反響を呼んだという。ご存知の方も多いだろう。

実は、消防士のエピソードは事実ではなく、アメリカで生活する女性ノーマが、亡くなったわが子を偲んで書いた詩で、偶然目にした誰かが共感し、テロのあと勝手に配信したのだ。

「あなたがドアを出ていくのを見るのが最後だとわかっていたら、わたしはあなたを抱きしめてキスをして、そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう」

私が好きな一部分である。この詩を読むととても優しい気持ちになり、いつも身近にいてくれる人のことをより大切に想うことができる。そして、その気持ちを表現して相手に伝えることが大切だと、強く思う。「この人とは、もしかしたら明日以降会えないかもしれない」のならば、出会った目の前の人に対して、今この時に、懸命に誠実に思いやりを持って接したいと思う。

鈴木五郎医療福祉学部長  
「退任特別講義」開催

三月一六日(月)特別講義がE-10一教室で行われました。鈴木先生は、一九九七年四月の医療福祉学創設以来、学部長として、また、二〇〇三年四月からは医療福祉学部長を兼務し、全国でトップクラスの国家試験合格率と就職率を誇る学部を創りあげてきました。

現在、日本ソーシャルワーカー協会会長や日本社会福祉士養成校協会理事など数多くの要職にあり、特にソーシャルワーカー養成に力を注いでいることから、特別講義のテーマも「ソーシャルワーク実践の原理と目標」として、これまでの豊富な経験と鋭い知見をもとに、ソーシャルワーカーのあるべき姿について説かれました。

当日は、現役の学生だけでなく、卒業生も多く集まり、また、親交のあった社会福祉協議会や福祉施設、病院関係者も駆けつけ、講義に耳を傾けました。

本紙面をお借りして、当日ご来場いただいた方々、お祝いのメッセージやお花をいただいた多くの皆様に感謝申し上げますとともに、鈴木先生のますますのご活躍、ご発展を祈念して報告いたします。

(医療福祉学教授 小林雅彦)

教職員「介護報酬研修会」開催

人手不足が深刻な介護現場の処遇改善

院九州地区主任教授の高嶋幸男先生は、今回の受賞について、「この研究は障害児の合併症予防法として斬新かつ重要です。本学大学院で高橋精一郎教授のご指導で立派な発表となり、優秀賞を受賞されましたことは大変喜ばしく、更に継続して発展させてほしいです」と、その重要性を指摘されました。

引き続き今後の研究に期待されます。

(大学広報 横溝公紀)

二〇〇九年度入試状況

三月のセンター試験利用入試をもって、本学の二〇〇九年度入学試験が全て終了した。

二〇〇九年度は、医療福祉・マネジメント学科、福岡看護学部開設という大きな変革があったと共に、入学試験では一般入試前期地方試験場の拡充、一般入試前期・センター試験利用入試前期成績上位者への授業料減免制度の導入等、受験者にとってより受験の機会、入学の可能性を広げる環境を整えての実施となった。しかし、大学進学者における医療福祉系統の志願者数が減少していることもあり、本学でも昨年度以上に厳しい学生募集となった。

しかしそのような中で、将来医療福祉に貢献したいという希望を胸に本学を受験し、合格した多くの新入生が本学での新しい生活を始めた。新入生には医療福祉のエキスパートとしてチーム医療を支え、中核を担う人材として活躍する日を目指し、日々学んでい

につながるかどうか、一般の人からも関心を集めた二〇〇九年度介護報酬改定の内容や影響について、医療経営管理学科長である高橋泰教授が、本グループ大田原地区の施設職員と教員に解説する教職員研修会「介護報酬改定の概要」が三月一日、本校E-10一教室で開かれました。

研修会で、高橋学科長は「介護の質を重視し、加算を主としつつ、全体の改定率は3%アップとなった」と、今回の改定の基本的な考え方や厚生労働省の狙いを詳しく説明しました。改定の特徴として、「都市部での介護、訪問介護などの在宅ケア、重症者ケア、入院時の情報提供などの連携業務、といった分野の報酬アップに焦点が当てられた」と指摘、施設種別別に改定の具体的な影響についても、わかりやすく解説しました。

会場の聴衆は約六〇人。熱心に聞き入っていました。

「介護報酬の改定の基本的な考え方がよくわかった」

(医療経営管理学科助教 中田健吾)

奥田憲一さんが「優秀賞」を受賞

第四三回日本理学療法学会(二〇〇八年五月一五〜一七日、会場・福岡市内)において、本学大学院修了生(二〇〇六年度)の奥田憲一さんが優秀賞を受



奥田憲一さん

賞されました。奥田さんは長年、重症児のQOLの向上に取り組んでこられ、現在、本学の臨床医学研究センター「柳川療育センター」でリハビリテーション室室長代理を務めています。

受賞テーマは、「重症心身障害児の背臥位時における下腿下垂法の考案と効果について―圧力分布測定システムと自律神経機能評価を指標として―」で、奥田さんが修士課程において研究したテーマを発展させたものです。

奥田さんによると、「この研究で考案した下腿下垂法は、ベッドの上にウレタンクッションを置き、下腿を着けた状態でのおむけに寝かせることで、体幹のねじれを修正することができ、ベッドで生活する時間が長い重症児の全身に、加齢とともに生じてくる変形を予防、改善するといった効果が期待できます」とのこと。

加えて、副交感神経の活動を計測して下腿下垂法が対象者にストレスを与えないことも示されました。

柳川療育センター施設長で大学



サークル紹介 第六回  
コーラス部

私たちコーラス部は学年関係なく皆で楽しく仲良く、わきあいあいとした雰囲気活動しています。部員は他の部活動に比べ少ないかもしれませんが、その分お互いの信頼が厚く気軽に過ごしやすい部活です。

私たちは月・金を中心として活動を行っており、様々な行事やボランティアの依頼に備えて日々練習を重ねています。練習内容は基礎的な発声練習から始まり、それぞれのコンサートの時期などを考えみながら決めた曲を練習しています。部活の活動内容としては、四月に新入生歓迎のコンサート、十月に大学祭でのコンサート、十二月にクリスマスコンサートを行っています。その他にも春休み・夏休みには楽しい合宿も控えています。

また、私たちは学内行事のほかに、ボランティアの依頼を受けて様々な施設を訪れています。子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方々に合唱の心地よいハーモニーを届けています。特に、お年寄りの方々は涙を流して喜んでくださることもあり、達成感と同時にお互いの心に感動が生まれています。このようにして、地域とのふれあいを持つことで大学の場では学ぶことのできない大切なことを学んでいます。

最後になりますが、現在の部員の半分は大学に入ってからコーラスを始めましたという人ばかりです。しかし、部員全員には歌がそして音楽が好きだという共通点があります。そういった気持ちをみんなで一つにして私たちは合唱をしています。歌や音楽に興味がある方は一度コーラス部へ足を運んでみてください。お待ちしています。

(薬学部 薬学科一年 菊地晃二)

◆2009年度入試 学部別志願者数

学部	定員	志願者数 ( )は昨年度
保健医療	480名	2528名 (3041名)
医療福祉	160名	307名 (411名)
薬	180名	365名 (529名)
小田原保健医療	130名	1336名 (1742名)
福岡看護	80名	254名 (一名)
福岡リハビリテーション	160名	527名 (620名)
合計	1190名	5317名 (6343名)

昨年度は都市部の難関大学でも志願者数が減少するなど、大学入試を取り巻く状況がさらに厳しさを増した。本学では今まで以上に在学生へのサポート体制等を充実させるとともに、今後医療福祉分野に進学を考慮する方々が本学で学びたいと思えるような魅力ある大学へと成長し続けていきたい。

(入試センター入試課)

歩道や役所、鉄道、飛行場など公共施設のバリアフリー化は改築や新築のたびに整備され着実に進んでいる。またそれらの職員の障害者に対する接遇も向上し手続きなどに簡便性が整えばさらに良くなる状況にある。ところがインフラや接遇が改善することで住みやすくなるはずの街に障壁を感じる。歩道は広く平坦になったがデザインを重視したのか粗いタイル張りであったり管理がされず凸凹であったりして車椅子のキャストが振動して痛みを持つ人にとっては地獄の回廊となっている。自動車の進入路の歩道は横傾斜が強く車道に飛び込むジェットコースターのごとく恐怖心を楽しんでもくれとばかりに存在し、建物に囲まれ目的地に直行せよとゆわんばかりに一息つく木陰や椅子がない。エレベーターや歩道は人を掻き分けなければ進めず、自転車や荷物がわざわざ障壁を作り、広い歩道では自動車も居座っている。自転車は歩道をジグザグに飛ばし路地から飛び出してくる。このようなことが街を歩けば多々遭遇する。バリアフリーになつて障壁が減ることで街を楽しめるはずなのに、恐怖心や不愉快を味わう場所になっている。

経済の発展や科学の発展でインフラが整い、さらに大量生産から少量多品種で自分の自由な要求を楽しめる商品提供が進み、お店もお客様を迎える接遇が発展し、消費者中心のサービス体系が確立してきた。一方仕事ではお客さま中心の接遇を演技し、個人では消

私の主張 第11回 バリアフリー：インフラと接遇は整ってきているが



費者として周囲に自分中心の接遇がされるのが当たり前を受けることを求め、学校で自分の子供が記念写真の真ん中にいないから撮りなせと教諭に要求する親もいる。安い商品提供のために投資家を頂点とする経営者、正規労働者、非正規労働者という階層によって労働コストを下げ、行政は国民年金や厚生年金の事件で判るように公務員のためにはあるがごとく変質し、教育現場では注意することでハラスメントになることを気にして良い言葉を並べて導き、日常では空気を読めとかフ、口グの中傷などの排他的な行動が生じている。

医療福祉を含めたあらゆる分野で顧客中心のサービスが成長してきたが、個人や組織の一部に能力が伴わないことで余剰の無さで目先の利益獲得やごまかし、快楽、発散行動や過度の顧客意識で自己顕示や要求をしているように感じる。このようなことが増加することでバリアフリーのためのインフラと接遇の改善を打ち消してしまうことに不安を感じる。

小田原保健医療学部 作業療法学科 教授 清宮良昭

## 看護学科「新カリキュラム」の開始

保健医療学部看護学科では平成二年度の一年生から新しいカリキュラムが開始になります。平成二〇年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則等（以下指定規則とする）の改正があったため、看護学科ではそれに伴って第四次カリキュラム改編を行いました。指定規則の改正の趣旨は、看護を取り巻く環境の変化に伴い、教育内容の充実を図り、学生の看護実践能力を強化することにあります。

そこで、看護学科では指定規則改正の趣旨に添って、平成二一年度入学生からのカリキュラム構成を図のように改編致しました。具体的には成人看護学実習（急性期、慢性期）の単位を4単位から3単位へ減らして、統合分野の実習を2単位新設し、各専門領域の学びを統合して総合的理解を深める機会を設けました。また、地域看護学実習を3単位から4単位へ増やし、地域での看護活動の理解を強

## 平成21年度改編 カリキュラム構成



## 「言語聴覚学科 新たな試みを取り入れた実習」

言語聴覚学科では、四年間を通して体系的な臨床コミュニケーションシヨンスキルの習得に力を入れて取り組んでいる。



その一環として、昨年度より総合実習施設で丸一日の実習を行っている。本実習の目的は二点ある。一点は臨床現場に一日身を置き、各施設の言語聴覚士の役割、業務の流れや臨床現場で必要な心構え・態度を学ぶことである。二点目は一度きりのわずかな時間で実際に一症例について大まかな症状を把握するスクリーニング評価を実施することである。

短時間で的確な情報を収集すること、質問のタイミングや話題の選び方など、その場で考え判断することの難しさと重要性を痛感したと同時に、個々の課題が明確になった。一方で現場の言語聴覚士が生きて働きと働く姿に刺激を受け、これから始まる総合実習と言語聴覚士という夢に向かって前進する原動力となった。日々、学生が入れ替わる本実習では学科と関連施設との密な連携が必須であり、本学の特徴を生かした臨床教育の試みの一つであると言える。

（言語聴覚学科助教 佐藤 妙子）

化し、看護実践能力を高めたいと考えています。（看護学科教務委員 郷間悦子）

## 研究最前線

第八回

### 超音波乳がん検診装置の開発



飯沼一浩 放射線・情報科学科教授

**女性のがんの罹患率は乳がんが一位**  
日本人女性のがんの罹患率は乳がんが一位で年々増加の傾向にあります。一方、女性のがんの五年生存率も乳がんが八十パーセント以上で一位です。このことは、乳がんがもつとも罹りやすいがんですが、早く発見できれば治癒の可能性がもつとも高いことを意味しています。

### 検診による早期発見の重要性

乳がんは早く見つかるほど治癒の可能性が高く、また一部分だけを手術する乳房温存手術も可能となるので、乳がん検診を広く普及させ早期に発見することが非常に重要です。一九八〇年代に米国で始まった乳がんの早期発見・治療を目指すピンクリボン運動は日本でも拡がり、十月を乳がん月間として東京タワー、都庁、各地の建物などをピンクにライトアップして乳がん検診の普及を呼びかけています。

### X線マンモグラフィ検査

厚労省は二〇〇四年から乳がん検診にX

線マンモグラフィの導入を決め、その普及に努めています。当初は検査技術が未熟で見逃しがあるなどの問題が指摘されましたが、その後関連する6学会が協力して検査の質の向上に精力的に取り組んでいます。マンモグラフィ検査では、被曝を減らしつつ鮮明な画像を撮るために撮影部分の厚さをできるだけ薄くする必要があります。そのため乳房を圧迫するので痛みを伴うのが欠点です。

### 超音波検査の優位性と問題点

米国では生涯八人に一人が乳がんに罹るといわれ（日本では二〇人に一人）、欧米でも長い歴史のあるマンモグラフィ検査が日本にも導入されたのですが、欧米と日本の大きな違いは、欧米では乳がん発症のピークが七十歳代にあるのに対して、わが国では乳腺組織の多い四十歳代後半にあるということです。このような高密度乳腺の検査にはとくに超音波検査が有効であるとの結果が報告され、検診も行われています。厚労省は二〇〇七年から十二万人を対象として超音波検診の有効性を評価する研究をスタートさせました。まだ結論は出ていませんが、超音波検査に詳しい人たちはその有効性を確信しており、私もその一人です。さらに、X線の被曝もなく痛みも全くないのが特徴です。

超音波検査は、検査技師が超音波プローブを乳房に当て表示される断面を見ながら、乳房全体について異常の有無を丹念に調べ、異常が見つかれば写真に撮ってそれを医師が判断する方法がとられています。そのため、技師の技能に大きく依存し、超音波検査の経験があまりない診療放射線技師には

## 乃木坂スクール 二〇〇九年度前期開講のご案内

大学院では、毎年授業の一部を広く一般の方々にも、公開講座「乃木坂スクール」として開講しています。

今年度も、医療・福祉関係を中心に、一四講座を開講します（左表をご参照ください）。講座ごとに、本学の教員以外にも、テーマに合わせた著名なゲスト講師をお招きし、ご講義いただきます。

また、インターネット同時中継も始めましたので、当日、都合で来られないと

	スタート日 時間	回数	定員 (東京)	講座タイトル	コーディネーター	受講料	遠隔	ネット 中継
#01	4/13 (月) 18:30~20:30	14回	80名	欧米やアジア諸国の医療制度に学ぶ	高橋泰	¥36,000	○	○
#02	4/14 (火) 18:00~19:30	14回	80名	医療情報システム概論 ～基礎から最近の話題まで～	開原成尢	¥36,000	○	○
#03	4/22 (水) 18:30~21:00	12回	100名	ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座～理論と実例研究～	竹内孝仁	¥36,000	○	○
#04	4/22 (水) 18:30~20:00	12回	50名	CRCに必要な最新の知識とスキル	中野重行	¥36,000	○	-
#05	4/8 (水) 18:30~20:30	15回	20名	病院のIT化と経営戦略への応用	開原成尢・外山比南子・長谷川高志	¥50,000	-	-
#06	4/25 (土) 18:50~20:50	8回	10名	動作分析体験コース	山本澄子	¥45,000	-	-
#07	4/15 (水) 18:30~20:30	10回	30名	摂食・嚥下リハビリテーションの実践	柴本勇	¥30,000	○	-
#08	4/16 (木) 18:30~20:00	12回	80名	CRAのための臨床試験の最前線と展望	中野重行	¥36,000	○	-
#09	4/17 (金) 18:30~21:00	12回	80名	安心と信頼の医療・福祉のデザイナー医療・福祉ジャーナリズムの視点からの考察	丸木一成	¥36,000	○	○
#10	4/10 (金) 18:30~20:30	13回	30名	ケースメソッドで考える医療経営	開原成尢・岡村世里奈	¥36,000	-	-
#11	4/11 (土) 18:00~19:30	12回	80名	地域連携コーディネーター養成講座～地域連携クリティカルパスと施設支援～	武藤正樹	¥36,000	○	○
#12	4/18 (土) 13:00~17:50	5回	30名	診療情報管理講座～疾病コーディング(上級)～	鳥羽克子	¥30,000	-	-
#13	4/25 (土) 13:00~17:50	6回	30名	診療情報管理講座～疾病コーディング(中級A)～	鳥羽克子	¥36,000	-	-
#14	5・2・5/9 (土) 14:00~16:30	各10回	各30名	対人援助技術の熟成を目指して実践家による実践者のためのスーパーバイジョン(コースI)・(コースII)	相原和子	¥60,000	-	-
#e-1	VOD授業			患者の声を医療に生かす	開原成尢・松下年子	¥5,000	-	-
#e-2	VOD授業			ボランティア最前線	大石剛史・大熊由紀子	¥8,000	-	-
#e-3	VOD授業			呼吸理学療法対象者に対する評価とアプローチ	丸山仁司	¥15,000	-	-
#e-4	VOD授業			心臓理学療法士をめざして	丸山仁司	¥15,000	-	-
#e-5	VOD授業			医学用語初歩	開原成尢	¥15,000	-	-
#e-6	VOD授業			役に立つ福祉用具の今日・明日・未来	田中繁	¥15,000	-	-

いう方は、インターネットの環境さえあれば一週間の間はいつでも視聴できます。本大学院生の方は、授業科目としての登録は勿論、ほとんどの講座が無料となりますので、ご自身の興味に合わせて受講いただけます。なお、人気の講座は既に締切りが出ています。HPでご確認ください。一人でも多くの方に「乃木坂スクール」のすばらしさを味わっていただきたいと思います。

（大学院東京青山キャンパス 川端穂）

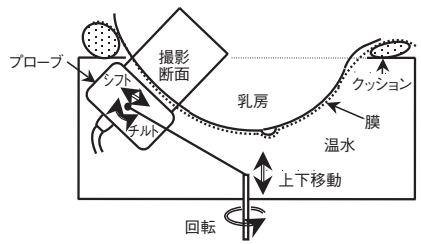


図1. 水浸法による超音波乳がん検診装置の模式図

断面なので検査技師はプローブを体表に接触させながら移動させて乳房全体の断面像を得る必要があります。しかし、乳房のサイズや形は様々であり、検査技師に変わる自動化の良い方法がまだ見出されていません。

図1はわれわれが開発しようとしている装置の模式図で、薄い膜を介して温水中に乳房を挿入し、超音波

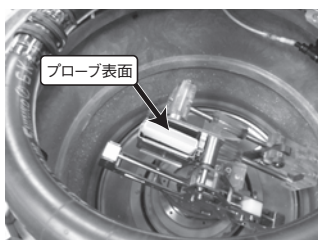


図2. 超音波乳がん検診装置の実験用試作機

なかなか入り込めない領域となっております。そこで、検診を普及させるためには診療放射線技師でも扱える自動化された検診装置が必要であると考え三年前に研究をスタートしました。

### 超音波水浸法（受診率八〇％を目指して）

乳がん検診を目的とした超音波装置は三十年も前から世界中のいろいろなメーカーが製品を試みましたが、いずれも実用化には失敗しています。超音波は空気を通らないため、超音波プローブを体表に当てて検査をしますが、得られる画像は

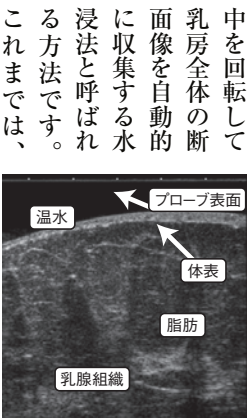


図3. 断面像の一例

中を回転して乳房全体の断面像を自動的に収集する水浸法と呼ばれる方法です。これまでは、プローブを一定の軌道に沿って移動させる方式は報告されていますが、良い画像を得るためにはプローブを体表に平行にしかつできるだけ接近させなければなりません。乳房の様々なサイズや形状に対してこれを可能にするのが図1に示した方式で、プローブの上下移動と角度を変える（チルト）機構を備え、プローブが体表に沿って回転しながら常にプローブが体表に平行でかつ接近するように自動的に制御されます。この自動制御の方式は超音波の画像処理を利用する独自のものです。本学科の菊地義信先生に開発をお願いしています。図2は科学技術振興機構の研究費で試作した実験用の装置で、図3は得られた断面像の一例です。

### 研究開発の難しさ

研究を進めるにしたがって隠れていた問題点が次第に明らかになり、それらを解決するための工夫を重ねてきましたが、まだ、実用化の見通しが得られたとはいえません。現状の最大の問題点は、様々な形状やサイズのすべての乳房に対しては全データの収集が困難なこと、必ずしも良好な画像が得られないことであり、そのほかにも細かい解決すべき課題があります。しかし、強いニーズがあるものは必ず実現するという信念をもって、今後も研究に取り組む積りです。





**第四五回熱海DMポルト**  
 一月二十九日(月)、当院において糖尿病友の会「熱海DMポルト」が開催されました。本会は、熱海病院の糖尿病患者様の情報交換等を目的として発足しており、内科の山田佳彦准教授が中心となり様々なイベントが開催されております。  
 今回は、「糖尿病と薬」をテーマとして薬剤師が糖尿病の治療薬について講話を行いました。新薬に関する難しい内容などを含んでいたため、上手に伝えられるか心配でしたが、熱心にメモを取られ、講話終了後にも質問が寄せられるなど、活気ある会となりました。  
 糖尿病は慢性的な疾患であるため、患者様が治療を中断することなく継続できるように教育が行うことが重要です。薬剤

**附属病院**  
**国際医療福祉大学熱海病院**

**第四五回熱海DMポルト**

**第一三回院内感染防止対策講習会**  
 一月二十九日(木)、地下一階の大会議室において、第一三回院内感染防止対策講習会が開催されました。「感染症診療のロジック」と題し、静岡がんセンター感染症科部長・大曲貴夫先生に感染症診療の実際の考え方について講義していただきました。  
 都内の病院でインフルエンザの集団感染が起こったばかりということもあり、院内での関心も高く、一〇名を越す職員が参加して活発な意見交換が行なわれました。  
 (総務課 篠原拓真)



師という立場から、患者様が糖尿病治療へ主体的に取り組み、セルフケア行動を獲得して維持できるようにこれからも援助をしていきます。  
 (薬剤部 渡辺俊輔・諏訪紀衛・松坂昌宏)

**臨床医学研究センター(千葉地区)**  
**化学療法研究所附属病院**  
**新人看護師1年を振り返る**  
 一年前に臨んだ国試から合格発表、入職、研修、職場配属・・・と慌しく過ごしてきた新人たちもこの春先輩看護師。1年を振り返る感想から、奮闘ぶり・成長の過程が伺えますのでご紹介します。  
**【六月まで】** 基礎から実践までさまざまな研修を経て職場に配属されてからは毎日ドキドキオロオロ緊張の連続。初めての静脈内注射は忘れられません。応援して下さった患者様に感謝しています。何をやるにもプリセプターにもびったりくっついて丁寧な指導を受けていました。  
**【九月まで】** 少し心にゆとりが出てきて受け持ちの患者様に対して優しく接することもできるようになってきました。先輩看護師のサポートのもと夜勤も始まり、チームの一員としての自覚、チームワークの大切さを実感。任されるケアが増えてきて自信がついてきた頃です。  
**【十二月まで】** 一通りの看護技術を経験し一人立ちまであとわずか。プリセプターと足りない技術や不安な項目を確認し、今後どうやっていくか考えながら、毎日看護に励んでいました。少しずつ責任感も芽生え、やる気もぐんぐん出てきました。  
**【三月まで】** 二年目に向けて行った事例検討発表会では自分自身の看護観を再確認すると同時に、これから深めていきたい分野について考え始めてきました。一年があつという間だったと思うと同時に、

**職員旅行を実施**  
 平成二十二年二月二日(土)～二三日(日)の二日間、約四年ぶりとなる職員旅行を実施しました。  
 当日は病院長・看護部長から、昨年から参加。福島県の東山温泉に宿泊し、日中は会津・猪苗代地区の観光やアルツハイマー病スキー場でのスキー・スノーボ、喜多方ラーメン食べ歩きなど、希望者毎でグループに分かれ、それぞれが楽しいひと時を過ごしました。  
 平成一九年の新病棟竣工以降、診療科の増設や新規事業の開設など、あわただしく二年が過ぎましたが、日頃の喧騒を離れリフレッシュでき、また職員同士の親睦を深めるよい機会となりました。  
 夜の宴会で見たパワーを業務に結集し、当院の次なるステップへ進んでいきたいと思っております。(事務部医事企画課)



**施設インフォメーション**  
 News: Affiliated Facilities

**附属病院**  
**国際医療福祉大学病院**

**研修会報告**

「看護の質向上を目指して」

「消化器外科手術手技セミナー」

「医療者が手術手技を知らないのはアンビリバーブルー」

**目的** 消化器外科手術手技に関する専門知識・治療技術を理解する

**内容** 実際に動物の組織を使用した胃・大腸の手術手技のデモンストラーション

**対象** 看護部・病理室・薬剤部・研修医・その他興味のある職員

**日時** 二〇〇九年一月一四日

一八・〇〇～二〇・〇〇

**講師** 国際医療福祉大学病院

外科上席部長 鈴木裕

外科医四名

研修会は外科上席部長・鈴木裕先生の提案で開催された。消化器外科の手術に関わるそれぞれの部門の職員が、手術の内容を理解することにより適正な対応が期待できると思う。

今回は前述した内容をクリアしようとの目的で、動物を実際に使用した手術手技セミナーが初めて開催された。研修会では、解剖・術式・術後管理のポイントが詳しく説明され実際に臓器を自分の手



で触れ手技を学んだ。教科書・講義だけでは、理解できないことがこの研修を通して受講者一人ひとり理解でき、また興味を持って受講、演習することで自分の立場を認識することができた。  
 参加者からは手術に関する理解も加わり、自信に繋がるなどの前向きな声が多かった。

高度医療と専門化に伴い医療者への期待や課題が大きくなってきている昨今であるが今回、看護部だけでなく他職種の参加もあり緊張の中にも知識の向上を目指し積極的に参加できたことは当院にとっても大きな収穫と考える。

今後も職種を問わず同じ目的を持ち連携して継続的に学習と経験を積み重ねより良い医療が提供できるよう頑張りたい。  
 (副看護部長 室井幸江)

**附属病院**

**国際医療福祉大学三田病院**

**緩和ケア人材育成研修会開催**

三田病院が二〇〇八年四月「東京都認定がん診療病院」に認定されたことにより、東京都の要請に基づき東京都医師会から委託を受け、東京都二十三区内の医療従事者を対象とした「緩和ケア人材育成研修会」を昨年十二月六日、本年二月二二日に開催しました。「がんチーム医療と緩和ケア」をメインテーマに、「疼痛を中心とした緩和ケア」「疼痛以外の症状管理」「多職種連携によるがん治療支援」「心理社会的及びスピリチュアルケア概論」につき、院内の関心に関わる様々な職種スタッフ(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、PT、OT、管理栄養士、MSWなど)が講演し、予想を上回る数の参加者が熱心に耳を傾けていました。



その他にも、東京都で昨年六月より発足している都内の「がん診療連携拠点病院」(厚生労働省指定)と「東京都認定がん診療病院」の二十四病院を集めた「東京都がん診療協

**第三回一般公開講座開催**  
 二〇〇八年一〇月二十九日、第三回一般公開講座を三田病院内にて開催しました。「メタボリックシンドローム」をテーマに、内科の小山一憲教授による講演に引き続き、「無理なく内臓脂肪を減らすために」池田真由美保健師、小林美樹管理栄養士、山崎智子理学療法士の三名が具体的なアドバイスや実演発表をしました。  
 今後も様々なテーマで定期的に開催し、患者様、地域の皆様に役立つ医療情報を提供していきます。  
**院内研修会レポート**  
 院内で行われている数々の研修会から今回は次の二つを紹介いたします。  
 ①医療安全対策室主催研修会  
 テーマ 「リスク及びクライシスマネジメントとしてのACLSの必要性」  
 演者 岐阜大学高度救命センター 豊田泉准教授  
 日時 二〇〇八年七月一日  
 ②学術図書委員会主催研修会  
 テーマ 「がんペプチドドワクチン療法 躍への期待」  
 演者 東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター長 中村佑輔教授  
 日時 二〇〇八年一〇月二二日  
 (総務企画課)



健康チェック・相談コーナーの様子

4月1日をもって、厚生連塩谷総合病院を継承し、国際医療福祉大学塩谷病院として新たなスタートを切りました。塩谷病院は矢板市をはじめとする2市2町の核医療機関として、地元の方からも馴染み深く、またそれと同時に地元住民の皆様から大きな期待も寄せられています。

塩谷病院は敷地面積35,000㎡以上を有し、建物も平成4年に建設されたとは思えないくらいきれいなもので、いわば地域の顔となっております。そこから外を眺めると天候の良い時は、北は那須岳、西には高原山がすばらしくきれいに見える場所に位置しており、立地条件は抜群です。

診療科は内科系、外科系診療科をはじめとし、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科等からなる総合病院で、ベッド数300床、江口光興院長はじめ約200名のスタッフから、日々患者様のために汗をかいています。これからIUHWグループの一員として、他の施設に負けないよう、職員一同業務に邁進していきますので、今後の国際医療福祉大学塩谷病院の動向に是非注目ください。



## 国際医療福祉大学塩谷病院

# 2つの新病院が誕生します！

すでにご存知のとおり、この春、グループに新たに2つの病院が加わります。矢板市の国際医療福祉大学塩谷病院と福岡市の福岡山王病院。改めてここでみなさんにご紹介しましょう。

江口光興先生が2月に、絵本「チーコのくれた宝物」のくれた宝物「チーコ」を出版されました。文はもとより、26枚の絵も先生が描かれ、全文訳が添えられています。この絵本は先生の御息が拾ってきた飼っていた子猫が突然いなくなり、留守中に帰ってきたというように、何日も何日も新しい餌を置いて仕事に出かけたという実話と、先生ご自身が診療を通じて、幼い子供と母親の関係が希薄になっていくのではと感じたことがベースになっています。

「人も動物も生き物の命はかぎりあるものです。命あるものが目の前から消えても、思い出し、周りの人と語り合うことは「ヒト」に与えられたすばらしい力だとも思います。命あるものが本当にこの世から消えるのは誰も思い出しにくくなくなるときかもしれません。時を経て、新しい喜びも生まれますが、過ぎた日の染しかなかった日々を思い出して、消えていったものを感じることで、心の優しさははぐくむことかと思えます。そんなことを考えつつ、この絵本を作ってみました」



2009年5月、福岡市中央区大宮の「福岡中央病院」を福岡市早良区の「福岡山王病院」に移転し、「福岡山王病院」として開院いたします。同地区は、博多湾に面したウォーターフロントゾーンにあり、福岡タワーや福岡ヤフージャパンドームなどのエンターテインメント施設、福岡市博物館、福岡市総合図書館などの文化施設を有しております。

新病院は敷地面積約23,000㎡、地上11階建ての病院です。199床ある病室は全個室のためプライバシーの確保ができ、リラクゼーション施設も充実しています。特に予防医学部門には力を入れており、利用者の皆様の利便性を第一に考え、健診設備を人間ドックフロアに集約、3・0階にスラムリー（磁気共鳴画像システム）、64列マルチスライスト、PET-CT装置といった高度医療機器を備えています。

また、同フロアには女性専用のエリアを設けており、まずで、初めての方でも安心して各種検査を受けていただくことができます。

生命の尊厳、生命の平等を、病院の理念として掲げ、優秀な医療スタッフ、高度医療機器、アメニティーの充実を3つの柱とし、質の高い医療サービスを提供したいと考えています。

2008年春、病院に先立ち隣接地に医療専門職を養成する専門学校「福岡国際医療福祉学院」を移転・開校いたしました。約600名の学生が新キャンパスで学んでいます。福祉施設である「総合ケアセンター」を併設し、通所サービス、訪問リハビリサービス、居宅介護支援事業に加え、今年6月からは訪問看護サービスの開始を予定しております。

学生は医療福祉現場をより身近なものとして感じることができると考えます。知識だけでなく、現場でのコミュニケーション能力を養い、即戦力となるコミュニケーション力の教育につとめてまいります。

今春の新病院の完成により、教育・医療・福祉の3施設が一体となった複合施設に大きく生まれ変わります。（九州広報 別府宏美）



完成予想図 エントランス

病室 リハビリテーション室

現在建て替え工事中の「山王メディカルセンター」は、山王メディカルプラザから名前を改め、まったく新しい施設へとその姿を変えることとなります。そもそも、二年前まで診察が行われていたこの山王メディカルプラザこそ、移転前の旧山王病院であり、著名な方々も数多く訪れた伝統の建物でありました。こぼれ話として、その建設工事には、あの力道山も協力していたと言われています。

しかし、昭和三十七年に完成された建物は老朽化が激しく、病院として最新の設備を整え上質の医療を提供するべく、ついに建て替えられることとなりました。

新たに生まれ変わる「山王メディカルセンター」は、健診センター、女性腫瘍センター、透視部門を柱に、山王病院とはまた違った医療機関として今秋竣工予定です。

新しい施設の概要は、まず一階には、山王病院に決して引けを取らない受付・ロビーが広がります。二階には個室も



完成予想図

臨床医学研究センター(東京地区) 山王病院 山王メディカルセンター

は予防医学センターとメディカルクラブ会員専用のラウンジ、五階には内視鏡や検査室が設置されます。さらに六階に女性腫瘍センターと手術室、七階に全個室の病室、八階にレストランという構成になっています。これまでの歴史と伝統を継承しつつも、新しい時代に生まれ変わる「山王メディカルセンター」の完成が、今から楽しみです。（山王病院 事務部）



建て替え工事の様子

備えた人工透析センター、三階にはPET・CT、MRIなど最新の機器を備えた放射線部門が予定されています。そして四階に

学医学部小児科教授の廣瀬伸一先生。「お子さんの身長が低く、年齢相応に身長が伸びていないようだったら病気が原因というところも考えられる。ぜひお子さんの成長曲線を描いて調べてみてください」。

標準成長曲線と比べてマイナス2SD（標準偏差）の線より成長が低い場合を「低身長（成長障害）」と呼んでいる。例えば六歳五カ月の女の子で身長が103・3cmの場合、成長曲線早見表で見ると標準身長は115・2cmなので11・9cm低い。これを標準偏差4・8で割るとSDスコアはマイナス2・5となり低身長と評価される。

背が低い原因は何か。①体質的なもの②ホルモンの（成長ホルモン、甲状腺ホルモン）異常③骨の病気④ターナー症候



「低身長」子ども健康教室

講師は福岡大学医学部小児科教授の廣瀬伸一先生。「お子さんの身長が低く、年齢相応に身長が伸びていないようだったら病気が原因というところも考えられる。ぜひお子さんの成長曲線を描いて調べてみてください」。

標準成長曲線と比べてマイナス2SD（標準偏差）の線より成長が低い場合を「低身長（成長障害）」と呼んでいる。例えば六歳五カ月の女の子で身長が103・3cmの場合、成長曲線早見表で見ると標準身長は115・2cmなので11・9cm低い。これを標準偏差4・8で割るとSDスコアはマイナス2・5となり低身長と評価される。

背が低い原因は何か。①体質的なもの②ホルモンの（成長ホルモン、甲状腺ホルモン）異常③骨の病気④ターナー症候

臨床医学研究センター(九州地区) 高木病院

「低身長」健康教室が人気です。現在子ども六人が公費負担で治療中。「子どもの身長が気になりませんか」と問いかけた「低身長」子ども健康教室が人気を呼んでいる。三月二三日、ちょうど一年前に次いで二回目を院内で開催したが、地域から一〇〇人以上の方が集まり前回は上回る盛況ぶりだった。

講師は福岡大学



成長ホルモン電動注入器 Growjector

にあたる成長ホルモン分泌不全性低身長症を対象としている。

受診すると、まず問診、身長体重測定、診察、左手のレントゲン撮影（骨年齢測定）、血液検査、尿検査を行い、二回目の受診で精密検査が必要かどうか判断する。低身長症が疑われるときは成長ホルモン分泌刺激試験や脳下垂体から分泌される他のホルモン検査、脳のMRI検査を行い、成長ホルモン治療が開始される。

高木病院では、現在大川、柳川、佐賀の六人の子どもたちが治療を受けている。一人あたり毎月約三〇万円の治療費がかかっているが、小児慢性特定疾患の適用を受け、治療費のほぼ全額が公費負担でまかなわれている。月に一回の廣瀬先生の特別外来は予約で満杯の状態が続いている。

今回の教室に参加されたお母さん方の感想を紹介したい。

●成長ホルモン自己注射の具体的な数値が聞けてよかった。

●うちの子の身長が気になっていたが、病的でないようなので安心した。

●娘は一九歳。今日の話をもっと早く聞きたかった。

（広報室 鶴田憲司）

群⑤慢性的病気（脳腫瘍など）⑥栄養不良や愛情不足、極度のストレスなどが考えられる。ここでは成長障害で受診すること私たちの一〇％超

医療福祉チャンネル774では、スカパー!の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

## 国際医療福祉大学アワー

大学・大学院などの情報が満載

入学式や卒業式・運動会・大学祭などの行事、臨床実習や海外研修・国際活動、そしてクラブやサークルの紹介、先生活へのインタビューなど、大学・大学院・IHWグループのホットな情報を、毎月お送りします。学生の皆様はもちろん、ご家族の方も是非お楽しみください。



平成21年度入学式

この番組はインターネットでもご覧いただけます。  
<http://www.iuhw.ac.jp/movie.html>

## 特集 介護保険改定2009

国際医療福祉大学大学院・医療福祉経営審査機構・医療福祉チャンネル774は、連携して介護保険改定をテーマに正確な情報と影響の分析をお届けします。

最新情報 <http://www.iryofukushi.com/kaigo/>

・介護報酬改定への対応と課題 (医療経営セミナー)  
 講師：鈴木健彦氏 (厚生労働省老健局老人保健課課長補佐) 他



開原成允氏 (本学大学院院長)

- ・介護報酬改定2009  
 講師：重元博道氏 (厚生労働省老健局老人保健課課長補佐)
- ・要介護認定改定2009  
 講師：田中央吾氏 (厚生労働省老健局老人保健課課長補佐)

## 黒岩祐治のメディカルレポート

6周年記念 90分スペシャルプログラム!

医師臨床研修制度見直しの行方

なぜ見直しが必要なのか、新人医師の診療能力は上がったのか、地方の病院崩壊は本当に止められるのか、そもそも医師不足と医師教育の問題を同じテーブルで議論することは正しいことなのか…。研修を受けた若手医師が、現場の指導医が、国の検討会メンバーが、激論を繰り広げます。



右：黒岩祐治氏 (フジテレビ報道局解説委員・本学客員教授)  
 左：森まどかキャスター (医療福祉チャンネル774)

## ケアマネジャー受験講座2009

10月25日(日)の試験に向けて!

ケアマネジャー試験は合格率20%台の狭き門。最新の医療福祉関連制度の動向が反映されると共に問題の難易度も年々高まっています。本講座の特長は、「見て聞いて学べること」。介護保険制度構築に関わった人、ケアマネジメントの第一線で活躍する人から直接学べます。



和田勝氏 (本学大学院教授)

## ◆774視聴者特典 無料配信中!

医療福祉専門チャンネル動画配信サイト  
 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com/>



### ●医療福祉チャンネル774を見るには

- 「医療福祉チャンネル774」はスカパー!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパー!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!
- 視聴料・・・月額2,100円 (このほかに、スカパー!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカパー!月額基本料・・・410円がかかります)
  - 法人契約・・・5,250円
  - IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

### ●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 (株)医療福祉総合研究所 お客さま係 Eメール [info@iryofukushi.com](mailto:info@iryofukushi.com) HP [www.iryofukushi.com/](http://www.iryofukushi.com/)  
 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー 4階

## 広報誌 IUHW 77号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔天神キャンパス〕

福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：米山真人ほか

編集：東京事務所広報室

©国際医療福祉大学 2009 Printed in Japan 禁無断転載・複写

## お知らせ

IUHW Hot News

### 那須神社へ国試合格祈願

2月26日、第39回視能訓練士国家試験が実施された。視機能療法学科としては、開設以来4度目の受験である。

これに先立ち、2月5日、受験者全員の合格を祈願して、1600年以上の歴史のある那須神社にて、4年生・教職員総出で「願掛け」を行った。これは視機能療法学科1期生から伝統となっており、これまで99%の合格率を達成している。国家試験へ向けて、学生と教職員に一体感が生まれ一丸となって取り組む体制作りに一役買っている。この記事が出る頃には既に合格者が発表されているだろう。御利益と学生の実力を信じて全員の合格を祈るばかりである。

(視機能療法学科助教 四之宮佑馬)

